知らなきゃもぐり?

ダンス人御用達のロングセラーを検証する

「マズくてダサイ」のにヒットした原液コラーゲン『痛快』の不思議

「痛快」を製造・販売しているティーシィービィの社長・野澤征生さんは、ダンスの競技会場で人気者だ。大御所・ベテランから若い現役選手まで、野澤さんを見つけると気軽に挨拶し話しかける人がやたらと多い。団体乱立でバラバラなダンス界で、これほど顔の広い人はいないのではないか、と思えるほど。一方、「痛快」のパッケージは、かなり怪しげだが、不思議とダンス愛好者には人気がある。そこで野澤さんと「痛快」がなぜそれほど人気者なのか、探ってみた

ネーミングもパッケージも「今さら変えられない」!

2003年にダンス市場に参入して8年、「痛快」は、数多いライバルとの激戦を勝ち抜き、数年でダンス界での評価を確固たるものにしてしまった。

なぜか。

「飲んでもらえばわかる。ダンスを真剣にやっている先生や一流の選手ほど、わかるんですよ。だからきっかけさえ作ればいいと思って教室を回ったり、競技会に出展してとにかくタダで飲ませ続けた。僕は『買え』とは絶対に言わないんだ。飲み続けた人は必ずうちの商品の価値をわかってくれるという自信があるからね」(野澤征生社長)

そう、「痛快」の品質を信じる野澤さんは、無料試飲という単純明快なマーケティングを飽くことなく続けてきただけなのである。

だが、ここで疑問が生じる。

「痛快」ははっきり言ってマズイのだ。もちろん野澤さんも原液のまま試飲させているわけではないが、2リットルのペットボトルにハチミツとレモン割りという単純な味付けなので、まあ、市販されているコラーゲンドリンクなどと比べるとイマイチの味である。

さらにパッケージ。

弊誌スタッフも、これまで競技会場で何度となく目にしているのだが、パッケージとネーミングを見てなんとなく近寄ることを避けていたほど怪しいのだ。

パッケージとネーミングを変える気はないのか、と問うと「最初の頃は、知り合ったダンスの先生みんなから『変えたほうがいい』って言われた。でも、最近は『今さら変えるな』という声が多いんだ(笑)」(野澤さん)。

原材料は「魚のウロコ」

「痛快」は、サンマ、イワシ、タイのウロコという異色の原材料を使った高純度の海洋性コラーゲンで、コラーゲン入りのドリンクと違い、「原液」であるところがウリ。未利用資源研究の第一人者として知られる工学博士・石塚庸三氏(東京工業大学、ルウ研究所所長)が、港湾の廃棄物である「魚のウロコ」の有用性に目をつけて開発した。

要は原材料タダで600㎖・7560円という価格は高くないのか。

「原材料集めと商品製造が大変なんです。特に製造工程は経験に頼った手作業が多い。品質はもちろん揃っているけれど、色や粘度などが製造日の天候や湿度によって変わってくるほどデリケートな商品なんですよ」(野澤さん)

最近は、人気モデルのえれなさんが愛用していることが縁で20代女性向けのファッション誌『CLASSY』で紹介されることになったと嬉しそうな野澤さん。

確かにたくさんのダンス人が商品力を認めているわけですからスゴイです。

でも野澤さん、やっぱファッション誌に出るんならパッケージデザイン変えましょうよ!

(本誌編集部)

「龍宮源海華 痛快」。垢抜けないデザインがかえってダンス人に愛されているようだ

協力:株式会社ティーシィービィ 東京都中央区日本橋蛎殻町2-15-7 中の橋ビル601 TEL 03-5695-4507 FAX 03-5695-4508